

県立下田高等学校

「行きたい学校づくり」推進事業

【ICT 活用による教育手法】

令和 6 年度 年間 報告

1 <成果指標と実績>

成果指標	R 6 当初 初期値	R 8 末 目標値	R 6 年 実績	R 7 年 実績	R 8 年 実績
①授業内容に興味があ って学校を選択した 生徒の割合 (%)	下田(全) 63% 下田(定) 67% 南伊豆分校 84% 松崎 69% 稲取 73%	下田(全) 70% 下田(定) 70% 南伊豆分校 85% 松崎 80% 稲取 75%	下田 (全) 77% (定) 78% 南伊豆分校91% 松崎 46% 稲取 75%	%	%
② (授業以外の) 指導 内容に興味があって 学校を選択した生徒 の割合 (%)	下田(全) 95% 下田(定) 89% 南伊豆分校 64% 松崎 83% 稲取 93%	下田(全) 95% 下田(定) 90% 南伊豆分校 65% 松崎 90% 稲取 90%以上維持	下田 (全) 84% (定) 100% 南伊豆分校87% 松崎 89% 稲取 92%	%	%
③志願倍率	下田(全)普通 1.05 理数 0.35 下田(定)普通 0.175 南伊豆分校園芸 0.65 松崎 普通 0.45 稲取 普通 0.99	下田(全)普通 1.05 理数 1.0 下田(定)普通 0.2 南伊豆分校園芸 0.7 松崎 普通 0.6 稲取 普通 1.0	下田(全)普通0.93 理数0.65 下田(定)普通0.23 南伊豆分校園芸0.55 松崎 普通1.03 稲取 普通0.74		

2 <年間の取組報告>

(1) 4校連携委員会の設置と開催

- ・ 7 月、4 校管理職にて 4 校連携委員会の設置や各校の教育課題の洗い出し、遠隔授業を実施している先進校への訪問について話し合った。
- ・ 9 月、4 校管理職にて正式に 4 校連携委員会を発足した。また、遠隔授業を実施している先進校の情報共有と訪問についての具体的な打合せを行った。
- ・ 11 月、4 校管理職にて組織体制の確認と先進校視察の報告、合同報告会の開催計画、南伊豆分校農業クラブの校内発表会、今後の運営体制と研究について打合せを行った。

(2) 各校校内組織（管理運営部会と部会）の設置

4 校でそれぞれ管理職と部会長からなる管理運営部会と、「情報」「教務」「進路」「生徒」「探究・地域連携」からなる 5 つの部会を設置し、以下のように役割分担を決めた。

管理運営部会 校内における組織、活動及び学校間連携に関すること、各部会のとりまとめ

情報部会 遠隔授業等 ICT 活用全般、広報に関すること

教務部会 遠隔授業、教務内規、時間割や行事予定の研究等に関すること

進路部会 進学講習、就職・公務員指導等に関すること

生徒部会 生徒会行事、部活動に関すること

探究・地域連携部会 探究活動、地域連携に関すること

(3) 4 校合同部会の開催

12 月から 1 月にかけて、(2) の 5 部会をそれぞれ 4 校合同（主に部会長同士による）で対面又はオンラインにて実施した。7 年度は 4 校による遠隔授業（進学講習など）の計画と試行、学校行事（生徒会行事等）、部活動、探究活動等の生徒交流の計画と試行を予定しており、その実施に向け各部会でできることやその課題等を話し合った。

(4) 先進校視察の実施

ア 北海道夕張高校・北海道高等学校遠隔授業配信センター

本校、共同研究校の管理職4名で10月8日（火）北海道夕張高校（受信校）、9日（水）北海道高等学校遠隔授業センター（配信校）を視察した。遠隔授業の受信側、配信側双方の授業の様子、機材の整備状況を実際に見聞きすることで、その必要性や期待される教育的効果などを理解することができた。また、遠隔授業実施に至るまでの過程の説明も受け、賀茂地区が抱えている教育課題との共通点を見出すことができた。



イ 京都府立宮津天橋高校宮津学舎・加悦谷学舎視察

本校、共同研究校の管理職・教諭5名で11月6日（水）加悦谷学舎、7日（木）宮津学舎を視察しICTを活用した遠隔授業や機材の整備状況を実際に見聞きした。また、「学舎制」による学校運営や学校行事・部活動等の学舎間連携（学舎間バスなど）について具体的に説明を受けた。



3 <特徴的な取組>

(1) 南伊豆分校農業クラブ校内プロジェクト発表大会のライブ配信

11月29日（金）南伊豆分校3年生生徒14名が3組に分かれて進めている研究内容の校内発表会が、オンライン接続により他の3校（稲取、下田、松崎）にライブ配信され、多くの教職員が視聴するとともに、南伊豆町の町長・教育長をはじめとした役場職員も視聴した。残念ながら他校の生徒は授業時間帯のため、ライブでの視聴はできなかったが、一部生徒はアーカイブで視聴し感想を送るなど生徒交流もできた。また、発表生徒にとってはライブ配信が良い刺激になったとのことである。



(2) オンラインによる先進校視察4校合同報告会の実施

2(4)の先進校視察について、12月25日（水）4校教職員を対象としてオンラインによる合同報告会が行われ、4校で合計46名の教職員が視聴した。報告は視察に参加した教員が分担し、それぞれの会場から配信を行った。高校教育課からもオンラインで参加いただいた。当日参加できなかった教職員にはアーカイブで視聴していただいた。遠隔授業や学校間連携等について教職員の理解をより深めることができた。



4 <成果と課題>

(1) 学校の魅力向上の実現について

本年度、ICT活用によって他校の生徒と交流した生徒の割合は4校合わせて13.5%（735名中99名）であった。交流の内訳としては学校行事が56.7%、部活動が30.9%、授業が6.2%、その他が6.2%であった。「交流によって自分の学びや活動が深まったか」という質問に対して、「そう思う」が24.7%、「ややそう思う」が56.7%と回答している。約8割がICT活用による生徒交流にプラスのイメージを持っており、7年度以降、4校で計画的に交流を行うことで、さらにその教育的効果を探り、学校の魅力向上につなげていきたい。

(2) 「ゴールイメージ」に向けての進捗

先進校視察によって、学校間連携の主軸となるICT活用による遠隔授業の配信側、受信側双方の授業のやり方や必要な機材等を知り、具体的な機材の購入に至った。また、報告会の実施等により、それぞれの教職員が賀茂地区の教育の現状と課題を把握し、ICT活用による遠隔授業や学校間連携、探究学習等に対する理解を深め、その必要性を自覚することができたと考えられる。